

2021年度 学校評価

学校名: NHK 学園高等学校 学校長名: 等々力 健

NHK 学園高等学校は、「教育理念」や事業計画、昨年度の学校評価で見えた課題などをもとに、以下の5つの評価項目を定め、生徒、保護者、教員を対象にアンケートを実施しました。その結果を第三者評価委員会に諮り、その指摘を踏まえて、次年度への課題と改善方策をまとめました。

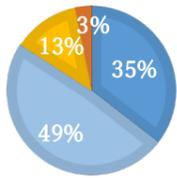
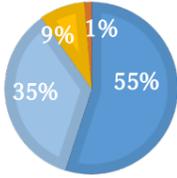
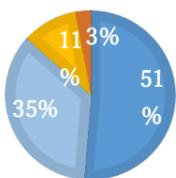
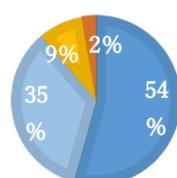
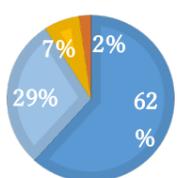
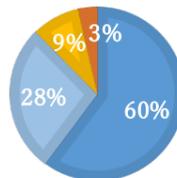
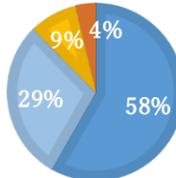
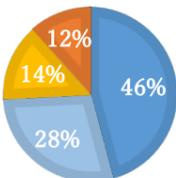
生徒アンケートでは、「NHK 学園高等学校に入学して良かった」の設問に対して、「そう思う」75%、「少し思う」22%と、あわせて97%の生徒から評価する回答をいただきました。
(達成度については、それぞれの評価項目についての生徒アンケートで「そう思う」「少し思う」と回答した割合の平均値で、自己評価しました。)

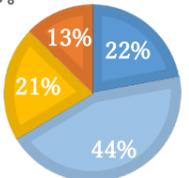
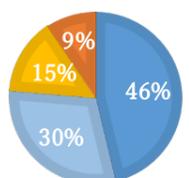
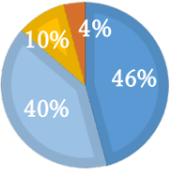
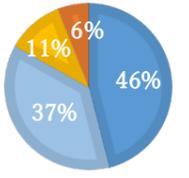
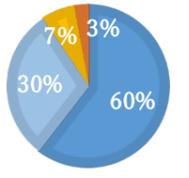
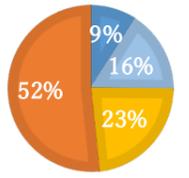
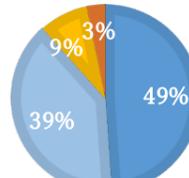
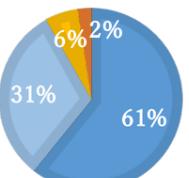
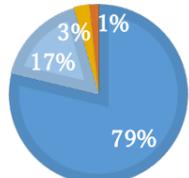
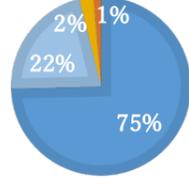
「教育理念」

- ・学習意欲のある人に対して、のびのびと学習できる機会を提供し、自ら学ぶ意欲と自主性を高め、社会の変化に自ら対応できる人間を育成します。
- ・生徒一人ひとりの個性を尊重し、一人ひとりに応じて柔軟に指導しながら、基礎的な学力と豊かな人間性が身につくことをめざします。

評価項目

1	学習指導	「放送視聴」「レポート」「スクーリング」「試験」によって生徒の意欲的・自主的な学習を推進し、基礎学力向上を図る。	達成度 生徒アンケートより A: 「そう思う」+ 「少し思う」 平均 80%以上 B: 同 60%以上 C: 同 40%以上 D: 同 40%未満
2	生徒指導	生徒一人ひとりが安心して学校生活を送れるようチームサポート体制の充実を図る。	
3	進路指導	生徒が各々の進路目標を実現できるよう進路指導体制の充実を図る。	
4	ICT 利活用	ICT の積極的な利活用によりスクーリングおよび自宅学習での理解度向上を図る。	
5	教育理念の実践	高校生活において満足感と達成感が得られるよう学校全体で教育理念の実践に努める。	

1 学習指導	<p>放送視聴、レポート添削、スクーリング、年度末試験、効果測定によって学力が向上していると実感できる。</p> 	<p>NHK 高校講座は自宅で視聴できる「授業」の役割を果たしている。</p> 	<p>レポートの添削指導はわかりやすい。</p> 	<p>スクーリングでの学習内容や学習活動は、理解しやすく取り組みやすい。</p> 	<p>試験（効果測定を含む年2回）は、自分の学習をふりかえる機会となっている。</p> 			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>課題</th> <th>具体的取組</th> <th>達成度</th> <th>次年度への課題と改善方策</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> ・2022年度から実施される新教育課程で示された「知識・技能」「思考・判断・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」の三観点を踏まえ、「新しいスクーリング」のあり方を議論するとともに、生徒の主体性を促進する活動をとり入れ、より実践的・体験的な学びの場へ転換する。 ・自宅でのレポート学習が生徒の学力向上に結びつくよう、内容・添削基準を精査し改善する。 </td> <td> ・教員間でレポート添削におけるルールの再確認と徹底を行い、迅速で丁寧な指導に努めた。 ・9月に行うオンラインによる効果測定と年度末試験によって学習を定着させ、理解度・習熟度を高めるよう、その内容について議論、検討を進めた。 ・全生徒のネットレポート化（郵送レポート完全廃止）を見据え、新教育課程の教材開発に取り組んだ。 ・新たなレポートやスクーリングのあり方について議論し、適宜、試行、実践を進めた。 ・新教育課程から導入される三観点を踏まえた「観点別学習状況の評価」の実施に向け、そのしくみ、評価方法について検討を継続した。 ・2022年度に向けて本校と全国に33ある協力校（スクーリングを実施する施設）の年間学習計画をまとめた「通信教育実施計画」を策定した。 </td> <td>A</td> <td> ・オンライン効果測定と年度末試験の教育効果の検証を行い、実施方法や内容について検討する。 ・学力向上の施策として、NHK 高校講座、教員が作成するオンライン配信動画、インターネット上の補助教材を効果的に組み合わせた学習モデルを構築する。 ・自宅学習での疑問解消、グループでの学習活動、あるいは個別な指導の場としてのスクーリングのあり方について検討する。生徒が主体的に活動できるよう、指導計画を整える。 ・新教育課程科目の指導実践とその評価、検証を行う。 ・2022年度の「観点別学習状況の評価」の方法、評価基準を決定し実践する。それをふまえ、「放送視聴、レポート、スクーリング、試験」の4つの学習要素を、評価の三観点到どのように反映させていくか、次年度以降に向けても継続検討する。 ・東京本校に設置したインタラクティブホワイトボード（電子黒板）を活用したスクーリング指導について研究、実践を行う。 </td> </tr> </tbody> </table>	課題	具体的取組	達成度	次年度への課題と改善方策	・2022年度から実施される新教育課程で示された「知識・技能」「思考・判断・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」の三観点を踏まえ、「新しいスクーリング」のあり方を議論するとともに、生徒の主体性を促進する活動をとり入れ、より実践的・体験的な学びの場へ転換する。 ・自宅でのレポート学習が生徒の学力向上に結びつくよう、内容・添削基準を精査し改善する。	・教員間でレポート添削におけるルールの再確認と徹底を行い、迅速で丁寧な指導に努めた。 ・9月に行うオンラインによる効果測定と年度末試験によって学習を定着させ、理解度・習熟度を高めるよう、その内容について議論、検討を進めた。 ・全生徒のネットレポート化（郵送レポート完全廃止）を見据え、新教育課程の教材開発に取り組んだ。 ・新たなレポートやスクーリングのあり方について議論し、適宜、試行、実践を進めた。 ・新教育課程から導入される三観点を踏まえた「観点別学習状況の評価」の実施に向け、そのしくみ、評価方法について検討を継続した。 ・2022年度に向けて本校と全国に33ある協力校（スクーリングを実施する施設）の年間学習計画をまとめた「通信教育実施計画」を策定した。	A
課題	具体的取組	達成度	次年度への課題と改善方策					
・2022年度から実施される新教育課程で示された「知識・技能」「思考・判断・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」の三観点を踏まえ、「新しいスクーリング」のあり方を議論するとともに、生徒の主体性を促進する活動をとり入れ、より実践的・体験的な学びの場へ転換する。 ・自宅でのレポート学習が生徒の学力向上に結びつくよう、内容・添削基準を精査し改善する。	・教員間でレポート添削におけるルールの再確認と徹底を行い、迅速で丁寧な指導に努めた。 ・9月に行うオンラインによる効果測定と年度末試験によって学習を定着させ、理解度・習熟度を高めるよう、その内容について議論、検討を進めた。 ・全生徒のネットレポート化（郵送レポート完全廃止）を見据え、新教育課程の教材開発に取り組んだ。 ・新たなレポートやスクーリングのあり方について議論し、適宜、試行、実践を進めた。 ・新教育課程から導入される三観点を踏まえた「観点別学習状況の評価」の実施に向け、そのしくみ、評価方法について検討を継続した。 ・2022年度に向けて本校と全国に33ある協力校（スクーリングを実施する施設）の年間学習計画をまとめた「通信教育実施計画」を策定した。	A	・オンライン効果測定と年度末試験の教育効果の検証を行い、実施方法や内容について検討する。 ・学力向上の施策として、NHK 高校講座、教員が作成するオンライン配信動画、インターネット上の補助教材を効果的に組み合わせた学習モデルを構築する。 ・自宅学習での疑問解消、グループでの学習活動、あるいは個別な指導の場としてのスクーリングのあり方について検討する。生徒が主体的に活動できるよう、指導計画を整える。 ・新教育課程科目の指導実践とその評価、検証を行う。 ・2022年度の「観点別学習状況の評価」の方法、評価基準を決定し実践する。それをふまえ、「放送視聴、レポート、スクーリング、試験」の4つの学習要素を、評価の三観点到どのように反映させていくか、次年度以降に向けても継続検討する。 ・東京本校に設置したインタラクティブホワイトボード（電子黒板）を活用したスクーリング指導について研究、実践を行う。					
2 生徒指導	<p>担任（担当）の先生は、私のことを考え十分に声をかけてくれている。</p> 	<p>担任（担当）の先生の助言や指導により、安心して学校生活を送れている。</p> 	<p>困ったことがあったら気軽に相談できる人（先生、友人、スクールソーシャルワーカーなど）がNHK 学園にいる。</p> 					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>課題</th> <th>具体的取組</th> <th>達成度</th> <th>次年度への課題と改善方策</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> ・本校に設置している「総合教育相談センター」機能の充実を図る。 ・東京本校担任や協力校担当による指導を強化し、対面・電話・オンライン相談体制の充実を図る。 ・複雑多様化する生徒・保護者のニーズに対応するために、地域のスクールカウンセラーを含めたチームサポート体制の強化を図る。 </td> <td> ・多様な課題を抱える生徒対応を可能にするため、全国各地のスクールカウンセラーによるオンラインを活用した相談体制の構築を進めた。 ・東京本校で「こころの相談医」による保護者を対象とした講演会を実施した。 ・メール・電話・ビデオチャット機能を用いた生徒への個別相談体制の強化を検討した。 ・配信メールサービス「安心安全メール」登録を促進し、学校からの発信情報をより多くの生徒・保護者に届けた。 </td> <td>A</td> <td> ・担任、生徒指導部、スクールカウンセラーおよびスクールソーシャルワーカー等で課題を共有し、それぞれの役割にもとづくチームサポートを推進する。 ・講演会のオンデマンド化により随時視聴できるようにし、保護者への情報提供を強化する。 ・「総合教育相談センター」の認知度を高める。特に各地区への周知を強化し、電話、メール等による遠隔での相談に対応するなど、地域差の解消に努める。 ・「N-gaku オンラインスペース」（生徒や保護者がアクセスし活用できるインターネット上の専用サイト）上の相談を実施する。 ・安心安全メールの登録率 100%を目指す。 </td> </tr> </tbody> </table>	課題	具体的取組	達成度	次年度への課題と改善方策	・本校に設置している「総合教育相談センター」機能の充実を図る。 ・東京本校担任や協力校担当による指導を強化し、対面・電話・オンライン相談体制の充実を図る。 ・複雑多様化する生徒・保護者のニーズに対応するために、地域のスクールカウンセラーを含めたチームサポート体制の強化を図る。	・多様な課題を抱える生徒対応を可能にするため、全国各地のスクールカウンセラーによるオンラインを活用した相談体制の構築を進めた。 ・東京本校で「こころの相談医」による保護者を対象とした講演会を実施した。 ・メール・電話・ビデオチャット機能を用いた生徒への個別相談体制の強化を検討した。 ・配信メールサービス「安心安全メール」登録を促進し、学校からの発信情報をより多くの生徒・保護者に届けた。	A
課題	具体的取組	達成度	次年度への課題と改善方策					
・本校に設置している「総合教育相談センター」機能の充実を図る。 ・東京本校担任や協力校担当による指導を強化し、対面・電話・オンライン相談体制の充実を図る。 ・複雑多様化する生徒・保護者のニーズに対応するために、地域のスクールカウンセラーを含めたチームサポート体制の強化を図る。	・多様な課題を抱える生徒対応を可能にするため、全国各地のスクールカウンセラーによるオンラインを活用した相談体制の構築を進めた。 ・東京本校で「こころの相談医」による保護者を対象とした講演会を実施した。 ・メール・電話・ビデオチャット機能を用いた生徒への個別相談体制の強化を検討した。 ・配信メールサービス「安心安全メール」登録を促進し、学校からの発信情報をより多くの生徒・保護者に届けた。	A	・担任、生徒指導部、スクールカウンセラーおよびスクールソーシャルワーカー等で課題を共有し、それぞれの役割にもとづくチームサポートを推進する。 ・講演会のオンデマンド化により随時視聴できるようにし、保護者への情報提供を強化する。 ・「総合教育相談センター」の認知度を高める。特に各地区への周知を強化し、電話、メール等による遠隔での相談に対応するなど、地域差の解消に努める。 ・「N-gaku オンラインスペース」（生徒や保護者がアクセスし活用できるインターネット上の専用サイト）上の相談を実施する。 ・安心安全メールの登録率 100%を目指す。					

	<p>予備校や大学、ハローワークと連携したガイダンス（オンラインでも配信）等を通して、進路に関して考える機会が多くあり、満足している。</p>	<p>自分の夢ややりたいことを見つけることができている（できそうだ）。</p>									
<p>3 進 路 指 導</p>	<p>■ そう思う ■ 少し思う ■ あまり思わない ■ 思わない</p> 	<p>■ そう思う ■ 少し思う ■ あまり思わない ■ 思わない</p> 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>課題</th> <th>具体的取組</th> <th>達成度</th> <th>次年度への課題と改善方策</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 進路に関する要望は生徒・保護者ともに年々高まり、多岐にわたっている。 多様化する進路相談に対応するために、外部機関との連携を模索し、幅広い情報提供と細やかな進路指導の実現を目指す。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 大手予備校と連携し、オンラインによる大学受験用コンテンツを提供した（別途受講料あり）。 東京本校の進路相談室で、カフェ形式の相談、ワークショップの機会を設け、外部専門家による進路指導を定期的実施した。 東京本校で大学、専門学校の関係者を招いた「合同進路説明会」（約 80 校）を行い、希望する生徒・保護者が参加できるように一部オンライン配信も実施した。 東京本校で「通信制大学説明会」（6 校）を実施し、全国配信した。 大学進学者向けの特別講演会、模擬授業、面接対策などの各種講座を実施した。 東京本校で就職希望者向け「就職ガイダンス」を実施した。 </td> <td>B</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 進路関連の行事のオンライン実施を標準化する。 全国の生徒および保護者への進路情報発信を計画的・継続的に実施する。 協力校においても、ホームルーム活動等を通じて進路について考える機会を増やすなど、進路学習に関する時間をさらに充実させる。 進学、就職指導の強化のみならず、生徒一人ひとりの特性に寄り添い、卒業後の所属（居場所）を見出すという視点で、入学時から卒業時までの継続的、体系的な指導を計画し実践する。 </td> </tr> </tbody> </table>	課題	具体的取組	達成度	次年度への課題と改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 進路に関する要望は生徒・保護者ともに年々高まり、多岐にわたっている。 多様化する進路相談に対応するために、外部機関との連携を模索し、幅広い情報提供と細やかな進路指導の実現を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 大手予備校と連携し、オンラインによる大学受験用コンテンツを提供した（別途受講料あり）。 東京本校の進路相談室で、カフェ形式の相談、ワークショップの機会を設け、外部専門家による進路指導を定期的実施した。 東京本校で大学、専門学校の関係者を招いた「合同進路説明会」（約 80 校）を行い、希望する生徒・保護者が参加できるように一部オンライン配信も実施した。 東京本校で「通信制大学説明会」（6 校）を実施し、全国配信した。 大学進学者向けの特別講演会、模擬授業、面接対策などの各種講座を実施した。 東京本校で就職希望者向け「就職ガイダンス」を実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 進路関連の行事のオンライン実施を標準化する。 全国の生徒および保護者への進路情報発信を計画的・継続的に実施する。 協力校においても、ホームルーム活動等を通じて進路について考える機会を増やすなど、進路学習に関する時間をさらに充実させる。 進学、就職指導の強化のみならず、生徒一人ひとりの特性に寄り添い、卒業後の所属（居場所）を見出すという視点で、入学時から卒業時までの継続的、体系的な指導を計画し実践する。
課題	具体的取組	達成度	次年度への課題と改善方策								
<ul style="list-style-type: none"> 進路に関する要望は生徒・保護者ともに年々高まり、多岐にわたっている。 多様化する進路相談に対応するために、外部機関との連携を模索し、幅広い情報提供と細やかな進路指導の実現を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 大手予備校と連携し、オンラインによる大学受験用コンテンツを提供した（別途受講料あり）。 東京本校の進路相談室で、カフェ形式の相談、ワークショップの機会を設け、外部専門家による進路指導を定期的実施した。 東京本校で大学、専門学校の関係者を招いた「合同進路説明会」（約 80 校）を行い、希望する生徒・保護者が参加できるように一部オンライン配信も実施した。 東京本校で「通信制大学説明会」（6 校）を実施し、全国配信した。 大学進学者向けの特別講演会、模擬授業、面接対策などの各種講座を実施した。 東京本校で就職希望者向け「就職ガイダンス」を実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 進路関連の行事のオンライン実施を標準化する。 全国の生徒および保護者への進路情報発信を計画的・継続的に実施する。 協力校においても、ホームルーム活動等を通じて進路について考える機会を増やすなど、進路学習に関する時間をさらに充実させる。 進学、就職指導の強化のみならず、生徒一人ひとりの特性に寄り添い、卒業後の所属（居場所）を見出すという視点で、入学時から卒業時までの継続的、体系的な指導を計画し実践する。 								
<p>4 I C T 利 活 用</p>	<p>オンラインでの学習サポートや動画配信は、学習のプラスになっている。</p> 	<p>メールやビデオチャット（オンライン相談）を利用した取り組みは、不安の解消に役立っている。</p> 	<p>N学オンラインスペース（NOS）は、学習を進めたり学校生活に必要な情報を得たりすることに役立っている。</p>  <p>N学オンラインスペース（NOS）を利用して、全国のN学生とコミュニケーションを取っている。</p>  <table border="1"> <thead> <tr> <th>課題</th> <th>具体的取組</th> <th>達成度</th> <th>次年度への課題と改善方策</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> NHK と連携し、放送やインターネット活用を基盤とした学習指導体制を構築する。 ICT 利活用により広域通信制教育の課題である地域差の解消を目指す。 コロナ禍で対面指導の機会が制限されるなか、環境変化に左右されず安心して学習継続できる仕組みを構築する。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> NHK 高校講座との連携を意識したレポート課題の作成を検討し、2022 年度の指導に向けて準備を進めた。 新型コロナウイルス感染症対策として、全教科でオンライン学習サポート（動画）を作成、配信した。 対面でもオンラインでも、受講方法を選択できるハイフレックス型授業を試行し、東京本校から全国の協力校生徒に配信した。 東京本校で開催した「N 学特別講座」を全国に配信した。 「N-gaku オンラインスペース」のビデオチャット機能を活用した進路相談を実施した。 タブレット学習（AI型教材）を登校コースで引き続き活用し、英数の基礎学習等に活用した。 東京本校教員と全国の生徒をオンラインで結ぶ「つぶらら」（教員インタビューやフリートーク、生徒の声の紹介などのリアルタイム双方向通信）を実施した。 </td> <td>B</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> NHK 高校講座の番組内容との連携を深めたレポート教材を作成し、主に新教育課程科目については、「N-gaku オンラインスペース」上で NHK 高校講座の視聴や教員への質問、レポートの提出・確認などができるようにする。 コロナ対策で導入したオンライン学習サポートを、標準的な学習教材として位置づけ、日常の自宅学習の支援に利用する。 広域通信制の特色を生かして、コミュニケーションが不得手な生徒でも、全国の生徒とつながることができるように、「N-gaku オンラインスペース」のコミュニケーションツールをより有効に活用する方法を検討し、実施する。 登校コースで導入したタブレット学習の検証を進める。 </td> </tr> </tbody> </table>	課題	具体的取組	達成度	次年度への課題と改善方策	<ul style="list-style-type: none"> NHK と連携し、放送やインターネット活用を基盤とした学習指導体制を構築する。 ICT 利活用により広域通信制教育の課題である地域差の解消を目指す。 コロナ禍で対面指導の機会が制限されるなか、環境変化に左右されず安心して学習継続できる仕組みを構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> NHK 高校講座との連携を意識したレポート課題の作成を検討し、2022 年度の指導に向けて準備を進めた。 新型コロナウイルス感染症対策として、全教科でオンライン学習サポート（動画）を作成、配信した。 対面でもオンラインでも、受講方法を選択できるハイフレックス型授業を試行し、東京本校から全国の協力校生徒に配信した。 東京本校で開催した「N 学特別講座」を全国に配信した。 「N-gaku オンラインスペース」のビデオチャット機能を活用した進路相談を実施した。 タブレット学習（AI型教材）を登校コースで引き続き活用し、英数の基礎学習等に活用した。 東京本校教員と全国の生徒をオンラインで結ぶ「つぶらら」（教員インタビューやフリートーク、生徒の声の紹介などのリアルタイム双方向通信）を実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> NHK 高校講座の番組内容との連携を深めたレポート教材を作成し、主に新教育課程科目については、「N-gaku オンラインスペース」上で NHK 高校講座の視聴や教員への質問、レポートの提出・確認などができるようにする。 コロナ対策で導入したオンライン学習サポートを、標準的な学習教材として位置づけ、日常の自宅学習の支援に利用する。 広域通信制の特色を生かして、コミュニケーションが不得手な生徒でも、全国の生徒とつながることができるように、「N-gaku オンラインスペース」のコミュニケーションツールをより有効に活用する方法を検討し、実施する。 登校コースで導入したタブレット学習の検証を進める。
課題	具体的取組	達成度	次年度への課題と改善方策								
<ul style="list-style-type: none"> NHK と連携し、放送やインターネット活用を基盤とした学習指導体制を構築する。 ICT 利活用により広域通信制教育の課題である地域差の解消を目指す。 コロナ禍で対面指導の機会が制限されるなか、環境変化に左右されず安心して学習継続できる仕組みを構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> NHK 高校講座との連携を意識したレポート課題の作成を検討し、2022 年度の指導に向けて準備を進めた。 新型コロナウイルス感染症対策として、全教科でオンライン学習サポート（動画）を作成、配信した。 対面でもオンラインでも、受講方法を選択できるハイフレックス型授業を試行し、東京本校から全国の協力校生徒に配信した。 東京本校で開催した「N 学特別講座」を全国に配信した。 「N-gaku オンラインスペース」のビデオチャット機能を活用した進路相談を実施した。 タブレット学習（AI型教材）を登校コースで引き続き活用し、英数の基礎学習等に活用した。 東京本校教員と全国の生徒をオンラインで結ぶ「つぶらら」（教員インタビューやフリートーク、生徒の声の紹介などのリアルタイム双方向通信）を実施した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> NHK 高校講座の番組内容との連携を深めたレポート教材を作成し、主に新教育課程科目については、「N-gaku オンラインスペース」上で NHK 高校講座の視聴や教員への質問、レポートの提出・確認などができるようにする。 コロナ対策で導入したオンライン学習サポートを、標準的な学習教材として位置づけ、日常の自宅学習の支援に利用する。 広域通信制の特色を生かして、コミュニケーションが不得手な生徒でも、全国の生徒とつながることができるように、「N-gaku オンラインスペース」のコミュニケーションツールをより有効に活用する方法を検討し、実施する。 登校コースで導入したタブレット学習の検証を進める。 								
<p>5 教 育 理 念 の 実 践</p>	<p>学校の雰囲気や学習内容は、NHK学園のホームページや案内書、個別相談のイメージ通りだった。</p> 	<p>NHK学園高等学校の教育理念は、実際の学習活動に反映されている。</p> 	<p>周りにあわせなくてもいい自由な雰囲気のなかで、自分のペースで学習できている。</p>  <p>NHK学園高等学校に入学して良かった。</p>  <table border="1"> <thead> <tr> <th>課題</th> <th>具体的取組</th> <th>達成度</th> <th>次年度への課題と改善方策</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 入学検討者のニーズに合わせた入学前相談を実施する。 本学の教育理念とその実践がわかりやすく伝わるホームページや案内書の作成に努める。 入学者に対して、本校・協力校の別に関わらず、一貫した教育理念に基づいた教育活動を実施する。 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 本学の教育理念や学習方法、入学検討者に合ったコースの特性等がオンラインでも対面でもしっかり伝わるよう、入学前相談の体制を整えた。 「オンライン学校説明会」を定期的開催し、本学の教育理念の浸透と広域通信制への理解の促進を図った。 公式ホームページや併設するウェブサイトなどで、学園生活や多様な在校生・卒業生の姿を伝えた。 本学の存在意義や目指すべき学校像をスクールミッションとして再定義し、スクールポリシーを定めて教職員の間で認識を共有した。 </td> <td>A</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> スクールミッション、スクールポリシーに則った教育活動を実践する。 生徒や保護者の接触率の高い SNS も活用して、本学の情報をよりわかりやすく、多くの人に届ける。 在校中に保護者が生徒の様子を知ることができるように、「N-gaku オンラインスペース」上での情報提供を試みる。 スクールミッション等を案内書、募集要項、ホームページに掲載し、教育理念の浸透を図る。 創立 60 周年にあわせて発信力を高め、同窓会組織の強化を図る。 </td> </tr> </tbody> </table>	課題	具体的取組	達成度	次年度への課題と改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 入学検討者のニーズに合わせた入学前相談を実施する。 本学の教育理念とその実践がわかりやすく伝わるホームページや案内書の作成に努める。 入学者に対して、本校・協力校の別に関わらず、一貫した教育理念に基づいた教育活動を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本学の教育理念や学習方法、入学検討者に合ったコースの特性等がオンラインでも対面でもしっかり伝わるよう、入学前相談の体制を整えた。 「オンライン学校説明会」を定期的開催し、本学の教育理念の浸透と広域通信制への理解の促進を図った。 公式ホームページや併設するウェブサイトなどで、学園生活や多様な在校生・卒業生の姿を伝えた。 本学の存在意義や目指すべき学校像をスクールミッションとして再定義し、スクールポリシーを定めて教職員の間で認識を共有した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> スクールミッション、スクールポリシーに則った教育活動を実践する。 生徒や保護者の接触率の高い SNS も活用して、本学の情報をよりわかりやすく、多くの人に届ける。 在校中に保護者が生徒の様子を知ることができるように、「N-gaku オンラインスペース」上での情報提供を試みる。 スクールミッション等を案内書、募集要項、ホームページに掲載し、教育理念の浸透を図る。 創立 60 周年にあわせて発信力を高め、同窓会組織の強化を図る。
課題	具体的取組	達成度	次年度への課題と改善方策								
<ul style="list-style-type: none"> 入学検討者のニーズに合わせた入学前相談を実施する。 本学の教育理念とその実践がわかりやすく伝わるホームページや案内書の作成に努める。 入学者に対して、本校・協力校の別に関わらず、一貫した教育理念に基づいた教育活動を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本学の教育理念や学習方法、入学検討者に合ったコースの特性等がオンラインでも対面でもしっかり伝わるよう、入学前相談の体制を整えた。 「オンライン学校説明会」を定期的開催し、本学の教育理念の浸透と広域通信制への理解の促進を図った。 公式ホームページや併設するウェブサイトなどで、学園生活や多様な在校生・卒業生の姿を伝えた。 本学の存在意義や目指すべき学校像をスクールミッションとして再定義し、スクールポリシーを定めて教職員の間で認識を共有した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> スクールミッション、スクールポリシーに則った教育活動を実践する。 生徒や保護者の接触率の高い SNS も活用して、本学の情報をよりわかりやすく、多くの人に届ける。 在校中に保護者が生徒の様子を知ることができるように、「N-gaku オンラインスペース」上での情報提供を試みる。 スクールミッション等を案内書、募集要項、ホームページに掲載し、教育理念の浸透を図る。 創立 60 周年にあわせて発信力を高め、同窓会組織の強化を図る。 								

第三者評価委員より 意見・要望・評価等

○進路指導については、NHK 学園は生徒のニーズの幅が広く、極めて難しい課題だ。一人でできる生徒はそれなりに進路に向かえるが、ひきこもる生徒たちには、卒業後も一般的な進路以外のニーズがある。そのような生徒が総合教育相談センターに身を寄せる。

○東京本校で実施している「心のケア講演会」などを、オンラインやオンデマンドで、全国各地の生徒も共有できるようにすることで、サポートを強化できるのではないかな。

○コロナ時代の生徒ゆえ、工夫次第でオンラインが十分活用できる。オンラインの活用に注目すると全日制高校の活動ではできないことが通信制高校で出来る逆転が起こるのではないかな。

○オンラインでの友人づくりに、オンラインの得意な生徒を活用することもできるし、例えば、関心のあるジャンルごとに呼びかけるなど、生徒が入りやすい仕組みがあると良いのではないかな。生徒から、友達と共有したことを拾い上げ、そこから企画をしてみてもどうか。国立市には3つの中学校があるが、3校を結んだ活動が、コロナ禍のため対面で行えず、オンラインで実施したが、非常に生産的な話し合いができた。

○学校は教科だけを学ぶ場ではないことをあらためて感じた。若い卒業生が同窓会にも入り、その中で関係を築いて、つながりが広がっていくのがいいのではないかなと思う。

<2021年度 学校評価 第三者評価委員会 委員(敬称略)>

市川 晃司 : 国立市教育委員会 教育指導支援課長

山登 敬之 : 明治大学子どものこころクリニック 院長

村越 和弘 : 全国高等学校通信制教育研究会 事務局長

藤森 康江 : NHK 制作局 第1制作ユニット 専任部長

村上 かほる : NHK 学園高等学校同窓会 副会長